

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	工業簿記2 (Industrial Bookkeeping 2)					担当教員	中村 大輔 (ナカムラ ダイスケ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	資格対応科目／知識定着・確認 型AL
	2037-3-23-116	専門科目	選択	2単位	2年次	後期		
2024-26年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	資格対応科目／知識定着・確認 型AL
	2437-3-23-055	専門科目	選択	2単位	2年次	後期		

① 授業のねらい・概要						
1年次配当の簿記入門では商品売買業における基本的な簿記を学んだ。工業簿記1・2では製造業における簿記を学ぶ。工業簿記2では日商簿記検定2級における工業簿記の範囲の中で総合原価計算、本社工場会計、標準原価計算、直接原価計算およびCVP分析について学ぶ。本講義は事務・経理職のスペシャリストを目指すために必須の知識であり、日商簿記2級対応科目である。						
② ディプロマ・ポリシーとの関連						
職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力						
③ 授業の進め方・指示事項						
授業は講義・演習にPCを用いるのでPC必携である。毎回電卓を持参すること。 資料配付等に Google Classroom を活用する。						
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能						
「工業簿記1」を履修していることを前提に授業を進めていく（工業簿記2は工業簿記1の内容を学修していないと理解できない）。 「商業簿記1」「商業簿記2」「工業簿記1」と共に履修することを強く推奨する。						
⑤ テキスト(教科書) ※授業で使用する。						
紙の教科書は用いない。代わりとして『Funda 簿記』というPCを用いたシステムを利用し、個人アカウントを購入してもらう。（「商業簿記・2」「工業簿記1・2」すべて共通である。簿記入門の範囲も復習・演習可能である）						
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。						
各年度に対応した予想問題集等。必要に応じて紹介する。						
⑦ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）						
Funda 簿記の利点（問題の出題や、学生個人の学修時間把握など）を活用し、検定合格につなげたい。						
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安						
(1) 総合原価計算について理解し、検定試験レベルの問題を解くことができる。 (2) 標準原価計算について理解し、検定試験レベルの問題を解くことができる。 (3) 直接原価計算およびCVP分析について理解し、検定試験レベルの問題を解くことができる。						
⑨ ルーブリック						
評価基準		S	A	B	C	D
評価項目		到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(1)	総合原価計算による原価計算	難易度の高い検定試験レベルの問題を解くことができる	標準的な検定試験レベルの問題を合格レベルで解くことができる	例題レベルの問題はほぼ正答できる	例題レベルの問題について6割程度正答できる。	基本的レベルの問題について正答できるのは6割未満である。
(2)	標準原価計算による原価計算	難易度の高い検定試験レベルの問題を解くことができる	標準的な検定試験レベルの問題を合格レベルで解くことができる	例題レベルの問題はほぼ正答できる	例題レベルの問題について6割程度正答できる。	基本的レベルの問題について正答できるのは6割未満である。
(3)	直接原価計算およびCVP分析	難易度の高い検定試験レベルの問題を解くことができる	標準的な検定試験レベルの問題を合格レベルで解くことができる	例題レベルの問題はほぼ正答できる	例題レベルの問題について6割程度正答できる。	基本的レベルの問題について正答できるのは6割未満である。

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計	
総合評価割合	80%		20%				100%	
(1) 総合原価計算による原価計算	35%		8%				43%	
(2) 標準原価計算による原価計算	25%		7%				32%	
(3) 直接原価計算および CVP 分析	20%		5%				25%	
評価項目「その他」詳細								
フィードバックの方法	解説が必要な課題や、正答率が悪い課題等については解説を加える。							
⑪ 授業計画と学習課題								
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）						
1	総合原価計算基礎①（総合原価計算の基礎）	工業簿記1を復習し、課題に解答する						120分
2	総合原価計算基礎②（単純総合原価計算：月初あり）	単純総合原価計算基礎の予習と課題の解答						120分
3	総合原価計算基礎③（単純総合原価計算：仕損・減損の処理①）	仕損・減損の予習と課題の解答						120分
4	総合原価計算基礎③（単純総合原価計算：仕損・減損の処理②）	仕損・減損の予習と課題の解答						120分
5	総合原価計算応用①（材料の追加投入）	材料の追加投入の予習と課題の解答						120分
6	総合原価計算応用②（工程別総合原価計算）	工程別総合原価計算の予習と課題の解答						120分
7	総合原価計算応用③（組別総合原価計算）	総合原価計算の予習と課題の解答						120分
8	総合原価計算応用④（等級別総合原価計算）	等級別総合原価計算の予習と課題の解答						120分
9	標準原価計算①（標準原価の計算）	標準原価計算の予習と課題の解答						120分
10	標準原価計算②（材料費差異の分析）	材料費差異分析の予習と課題の解答						120分
11	標準原価計算③（労務費差異の分析）	労務費差異分析の予習と課題の解答						120分
12	標準原価計算④（製造間接費差異の分析）	製造間接費差異分析の予習と課題の解答						120分
13	直接原価計算①（直接原価計算と CVP 分析の基本）	直接原価計算・CVP 分析の予習と課題の解答						120分
14	直接原価計算②（CVP 分析の応用と損益計算書）	直接原価計算方式の損益計算書の余裕と課題の解答						120分
15	まとめ	後期範囲の復習と課題の解答						120分
⑫ アクティブラーニングについて								
知識定着・確認型 AL を採用する。Funda を使い、毎回の出題範囲について課題を課す。解説が必要な問題や、正答率が悪い問題等については解説を加えることで、知識の定着・確認を図る。								

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性